

## オーナーblog 第18話 「エンジンバラ大学といくせい塾」 (2024.5.2.)

中国が改革開放政策を始めたとき、数万人の桂林理工大学と数十人のいくせい塾が“対等”な交流会を行った。大学職員と学生の熱烈な歓迎は、時代を加味しても不思議な光景である。余談になるが、タタ財閥の副会長も参加したデリー商工会で、いくせい塾塾長として挨拶したこともあった。これも摩訶不思議な光景に思われる。

今回は、昨冬の保護者学習会で写真をお見せしたアトウー先生の話である。大学卒業後にホームステイで来塾され、3か月間英語指導をして頂いた。彼女の娘さんが英国エンジンバラ大学で優秀学生賞を表彰されたというラインをもらい不思議な思いをしている。子供の頃に会った娘さんが、想像すらしなかった成長で驚かされた。お母さんもデリー大学で優秀だったので不思議でもないことに納得した。

そもそもの出会いは、私がインド放浪旅で **1等車両** を使用していたとき、2組から家に招待されたのである。1組はBJP（現モディ政権）の政治家、もう一組はナガーランド州の国会議員家族である。アリアとモンゴロイドで、何となく **後者の誘い** を受けて泊めてもらった。そのお返して、親族の女性をホームステイで受け入れることになった。彼女は、日本は選択肢になかった のだが、勧められて来日することになった。二度目の来日で、牧師さんと結婚して娘さんが生まれた。

私が疲れて 1等車をたまたま利用した こと、そして、アリア系を選択しなかったことで、エンジンバラ大学のアワード受賞者が決定したことに不思議な“因縁”を覚えたのである。